

## 平成 16 年 12 月の解説（府県天気予報）

### 【12 月の天候状況】

上旬と中旬は冬型の気圧配置となる日が少なく、北陸地方でも移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。4 日から 5 日にかけては、本州付近で低気圧が発達して全国的に大荒れの天気となり、5 日の早朝に強い南風の吹いた関東地方では内陸部を中心に 25℃以上の夏日となる所が多く、熊谷の最高気温は 26.3℃まで上昇しました。

下旬は北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多くなり、全国的に寒気が流入した影響で平均気温も徐々に下がり始めて、25 日頃には平年並に戻りました。29 日と 31 日には、相次いで本州の南岸を低気圧が通過した影響で、太平洋側の地方でも雪が積まりました。

### 【12 月の検証結果】

17 時発表予報の「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報が例年並<sup>(注)</sup>の 84%で、明後日予報は例年より 4 ポイント高い 84%でした。明日予報については、近畿地方と中国地方などが例年よりやや高く、逆に九州北部・南部地方では例年よりやや低くなりました。明後日予報については、九州北部地方と沖縄地方を除く広い範囲で例年より高くなりました。

最高気温と最低気温の予報誤差は、全国平均でともに例年より 0.1℃小さい 1.5℃と 1.6℃でした。最高気温については、東海地方が例年より 0.3℃小さかったのを除けば、全国的に予報誤差がほぼ例年並でした。最低気温については、例年よりやや小さい地方が多く、沖縄地方は例年より 0.5℃小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【12 月の天気予報から】——南岸低気圧による雪（31 日の東京地方の予報から）——

31日は日本付近が広く寒気に覆われているなかを本州の南岸に沿って低気圧が東進したため、西日本から東北地方にかけての広い範囲で雪が降りました。

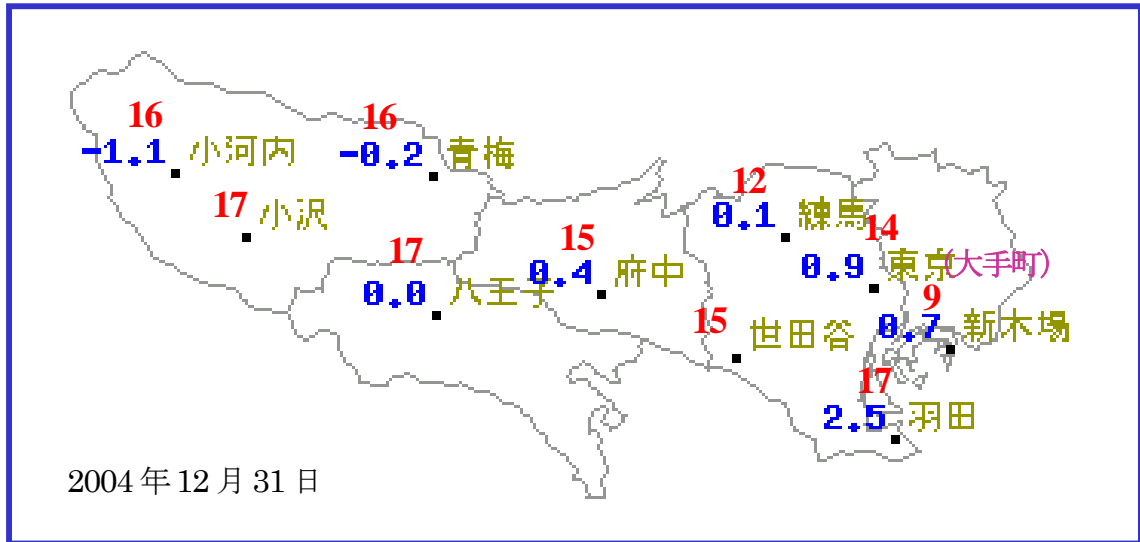
31日5時発表の東京地方の予報では、「くもり。昼過ぎから夕方、雪か雨」でしたが、低気圧の動きが予想よりも少し速かったため、気象庁のある大手町では11時過ぎから「雪」が降り始め、14時頃から「みぞれ」に変わり、15時には「雨」となりました。都心部ではおよそ2㍉の積雪でしたが、多摩地方は昼前から17時頃まで雪が降り続き、多い所では積雪が10㍉を越えました。

上空から雪として落下してきた氷の結晶は、暖かい空気の層に入ると溶け始めます。その際には周りの空気から融解熱を奪いますが、その冷却効果を打ち消すだけの暖かな空気の流入さえあれば、氷の結晶は地上に達するまでに雨粒に変わります。

大手町の地上気温は、雪の降っていた時間帯は1℃以上でしたが、その後みぞれから雨となった14時から15時にかけての時間帯には1℃より低くなっています。一方、上空1000㍍付近の気温は、雪の降り出しから下がり始め、13時に0℃まで低下した後、14時には2℃、雨に変わった15時は6℃まで上昇して、大手町で雪から雨に変わった状況とよく対応しています。

	11時	12時	13時	14時	15時
上空の気温	2℃	1℃	0℃	2℃	6℃
地上気温	2.6℃	3.0℃	1.3℃	0.3℃	0.9℃
天気	曇り	雪	雪	みぞれ	雨

31日11時～15時の上空1000㍍付近の気温、地上気温、天気  
(東京：大手町)

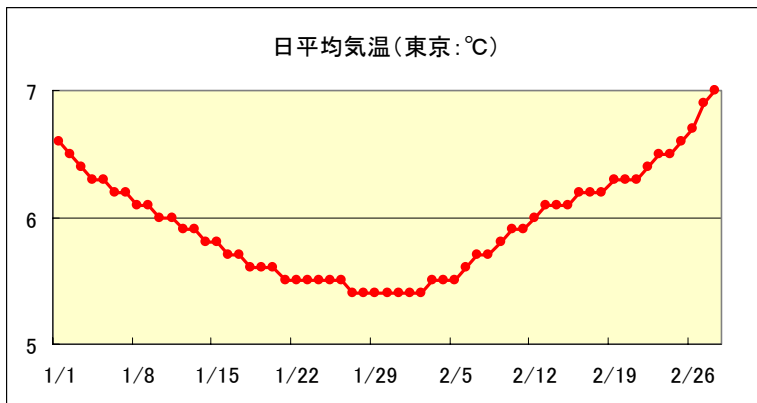


2004年12月31日

アメダス観測による15時の気温(°C:青色数字)、日降水量(mm:赤色数字)

### 【2月の天気予報の利用にあたって】

2月は寒さの厳しい日もありますが、立春(今年は2月4日)の頃から徐々に気温が上がり始めて、下旬には気温上昇のペースがやや速くなります。これは、1月と比べて冬型の気圧配置があまり長続きせず、本州付近を低気圧と高気圧が交互に通過することが多くなるからです。低気圧が日本海を通過するときには低気圧に向かう南風で全国的に気温が高くなりますが、寒冷前線が通過すれば北風が変わって気温が急変します。このような寒暖の変化が大きくなる時期は、受験シーズンと重なります。気温予報を上手に利用して、外出時の服装を調節するように心掛けてください。



#### 日平均気温の平年値(1~2月)

東京(大手町)の日平均気温は、1月末から2月はじめにかけて最も低いが、その後は上昇する。